

自己紹介及び 研究テーマ・事業内容の概説

下園（榎本）

美保子

経 歴

- 1996年 3月 奈良県立医科大学附属看護専門学校 卒業（看護師資格取得）
- 1997年 3月 奈良県立保健学院 卒業（保健師資格取得）
- 2009年 3月 山梨大学大学院修士課程（社会医学講座）修了（修士（医科学））
- 2012年 3月 山梨大学大学院3年博士課程（社会医学講座）修了（博士（医科学））
- 1997年 4月 奈良県下市町役場（保健師）（～2007年3月）
- 2007年 4月 共立高等看護学院（甲府市）非常勤講師（公衆衛生学）（～2012年3月）
- 2008年 4月 山梨歯科衛生専門学校（甲府市）非常勤講師（公衆衛生学）（～2012年3月）
- 2012年 4月 帝京大学医療技術学部看護学科地域・公衆衛生看護学領域 助教（～2016年3月）
- 2016年 4月 愛知県立大学看護学部看護学科地域・在宅看護学領域 講師(～2020年3月)
- 2019年 5月 NPO法人アダージョちくさ 理事長（現在に至る）（精神障害者就労継続支援B型）
- 2020年4月 大和大学保健医療学部看護学科公衆衛生看護学領域 准教授・教授（～2023年3月）
- 2023年4月 秋田看護福祉大学看護福祉学部看護学科・公衆衛生看護学領域・教授（現在に至る）



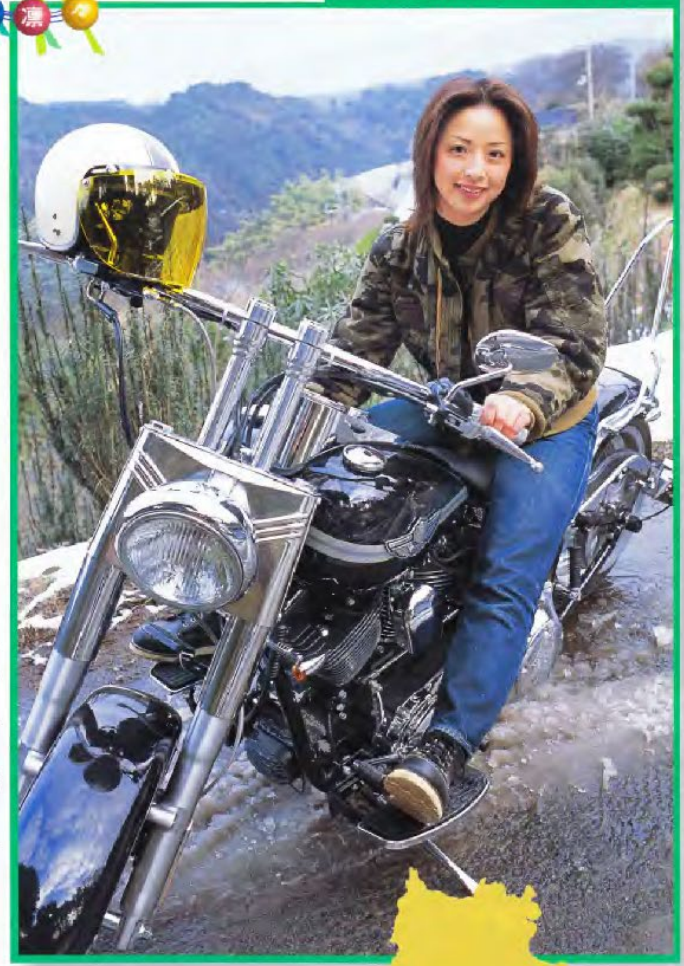
奈良県

下市町(しもいちちょう)

平安時代から交易が盛んで、吉野川下流の市が「下市」と呼ばれたのが町名の由来となっている。建武のむかし、里人が杉ばしを後醍醐天皇に献上した記録があり、杉の木は町のシンボル。杉割りばしなどの木工品が特産品。人口は、昭和30年代の1万5,000人をピークに減少し、現在約8,300人。過疎化が激しく高齢化率は30.5%。



ハーレーダビッドソン「ファットボーイ」を環り回す「走り屋」が今回の主役。300kgを超える重厚感あふれる車体と路面を切り裂くエキゾーストが魅力と言う



保健師としてとらえよう
一人の住民として地域と向き合おう

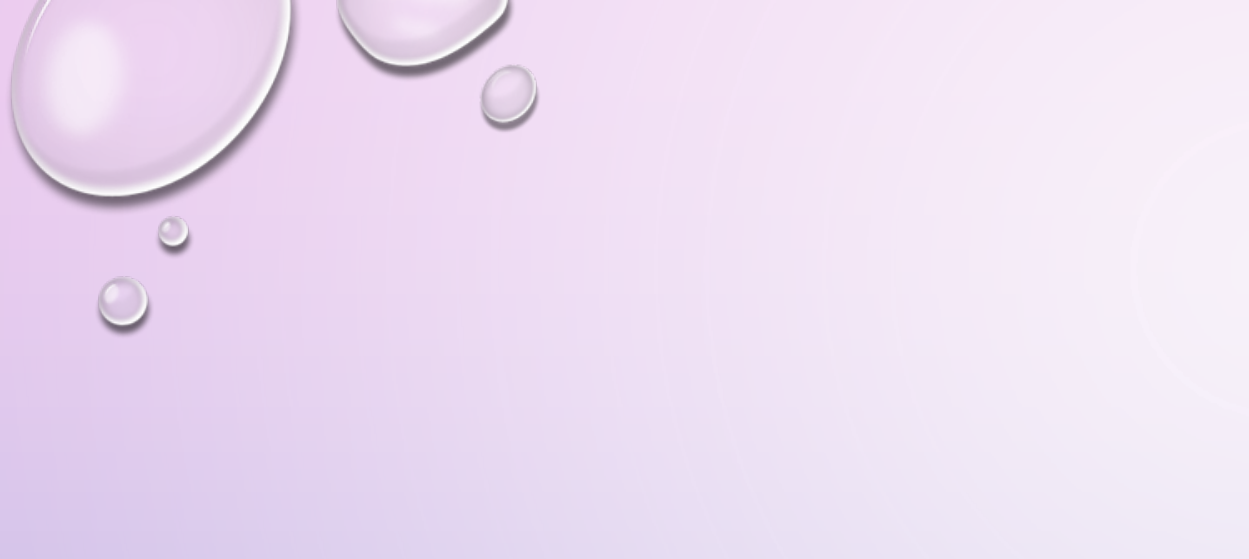


奈良県

下市町(しもいちちょう)

平安時代から交易が盛んで、吉野川下流の市が「下市」と呼ばれたのが町名の由来となっている。建武のむかし、里人が杉ばしを後醍醐天皇に献上した記録があり、杉の木は町のシンボル。杉割りばしなどの木工品が特産品。人口は、昭和30年代の1万5,000人をピークに減少し、現在約8,300人。過疎化が激しく高齢化率は30.5%。

保健師になるべくしてなった天性の保健師。取材をしてそんな印象を持ちました。しかし、本人にはそんな力みは一切ありません。それどころか、保健師としての専門性よりも、一住民としての生き方を前面に押しだして、地域と向き合っています。オートバイを愛し、仕事にも遊びにも真剣な、下市町保健センターの森川美保子さんならではのユニークなヒューマンネットワークを紹介します。





山梨大学医学部の山縣然太郎教授（写真右）ら子ども家庭総合研究事業の研究班員と。森川さんが講師を務めた地域保健と幼稚園教育の連携をめざす研修会の会場で。公衆衛生学会で隣に座ったのがきっかけで教授と知り合い、研究班員に。モットーは「つかまえた人は離さない」

研究・現場支援・開業①

【研究】

1. 疫学研究

生活習慣病予防における継続支援のあり方

2. プログラム評価研究

メンタルダウンしている方への支援プログラムと評価

(高齢者の閉じこもり, 地域在住で精神疾患のある方)

3. 公衆衛生看護学研究

セルフ・ネグレクトの方へのケアと専門職支援

4. 災害対策研究

在宅療養者への個別支援計画と訪問看護ステーションのBCP計画の開発

研究・現場支援・開業②

【現場支援】

5. 市町村支援

健康増進計画の作成と評価（プログラム評価理論の導入も検討中）

【開業】

6. 一般社団法人リプラボ（2021年2月開業）

産業保健：メンタルヘルスの予防対策

①健康相談及び職場環境整備 ②ITを用いたデータ収集と支援

障害者就労：職場環境整備と多様な働き方の提供

7. NPO法人アダージョちくさ 精神障害者対象 就労継続支援B型

1. 疫学

修士論文

生活習慣改善優先順位決定ツールを用いた
生活習慣改善の有用性の検討

博士論文

携帯電話を用いた 生活習慣病予防を目的とする
行動変容の継続支援プログラムの有用性
—傾向スコアマッチング法による検証—

2. プログラム評価

文部科学省・科学研究費補助金 基盤 (A)
実践家参画型効果的プログラムモデル形成評価研究

精神科デイケアおよび訪問支援

統合化プログラム

実施マニュアル(暫定版)

2014年9月

効果のあがる精神科デイケアおよび訪問支援統合化プログラム
開発評価研究班



プログラム評価理論による地域保健活動の開発

講師 下園 美保子

(シモゾノ ミホコ)

看護学部 看護学科

セルフ・ネグレクトの人への支援

ゴミ屋敷・サービス拒否・孤立事例への対応と予防

岸恵美子他編(下園美保子共著),セルフネグレクトの人への支援-ゴミ屋敷,サービス拒否,孤立事例への対応と予防-,中央法規出版,2015)

これまでの研究成果を、当事者やご家族のかた、また現場で苦慮されている専門職に向けて書籍化。

いちほら健康まちづくりプラン

未来へつなく「健待都市」

—いつの間にか健康になれるまち いちほら—

千葉県市原市役所保健福祉部保健センター,いちほら健康まちづくりプラン(2017-2026年度),2017,3月

健康格差の是正を目的に、住むだけで健康になるまちをめざした計画を策定。評価はプログラム評価理論を導入しアドバイザーとして支援

研究シーズの内容

- ・閉じこもり高リスク者に早期介入する、地域サロンと訪問支援の統合化プログラムの開発
- ・高齢者及び若者のセルフ・ネグレクトの方への支援に関する実証的研究
- ・在宅における養護者の高齢者虐待行為に対する介入・予防プログラムの開発
- ・プログラム評価理論を用いた精神科デイケアと訪問支援の統合化プログラムの開発
- ・実践家参画型エンパワーメント評価を活用した有効な EBP 技術支援センターモデル構築
- ・プログラム評価理論を踏まえた健康増進計画の策定及び評価

研究者からのメッセージ

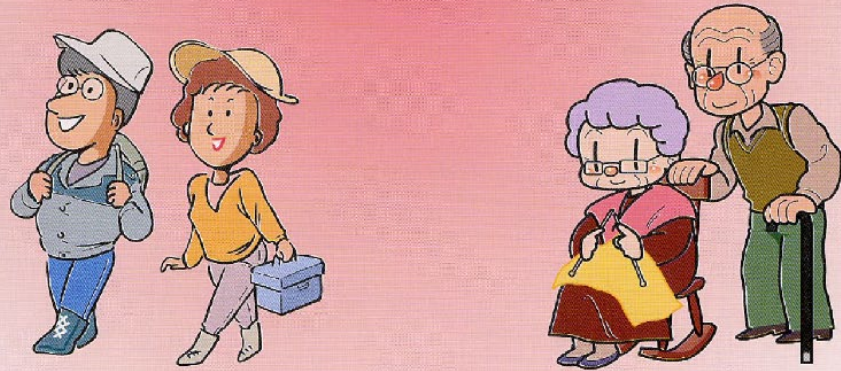
在宅看護学や公衆衛生看護学などの地域看護分野の現場がエンパワーされ、療養者や住民の意見が反映され、関係機関に活動をご理解頂き協働することを目指し、「見える化」と「評価」を組み込んだ、プログラム評価理論に基づくプログラム開発を研究しています。現在は、セルフ・ネグレクトの方、高齢者の閉じこもり予防、地域精神保健、健康増進計画などの分野を対象に行っています。

研究キーワード

公衆衛生看護学 在宅看護学 プログラム評価理論 健康増進計画

健康増進計画の策定・評価

おたっしや下市21計画



平成15年3月
景市町

改訂

健康いちほら21

～ 自然とたわむれ 笑顔がいっぱい ～

食べよう! 動こう! 楽しもう!
みんなが いちほら 健康大使



平成23年3月
市原市

セルフ・ネグレクト（いわゆるゴミ屋敷問題含む）

セルフ・ネグレクトのアセスメントとケア

岸恵美子

ツールを活用した
ゴミ屋敷・
支援拒否・
8050問題
への対応

中央法規

セルフ・ネグレクトの人への支援

ゴミ屋敷・サービス拒否・孤立事例への対応と予防

編集代表 岸恵美子
編集 小宮山恵美
滝沢香
古岡幸子

中央法規

セルフ・ネグレクトの人への支援

「人間関係のトラブル」「孤立」「貧困」「認知症」「精神疾患」など、セルフ・ネグレクトのリスクファクターを解説するとともに、支援事例を豊富に収載する。

支援・予防にあたって参考となる、地域における先進的な取り組みも紹介する。

セルフ・ネグレクトのアセスメントとケア

セルフ・ネグレクト(自己放任)の人への支援は難しい。本書では基本知識を踏まえつつ、アセスメントや介入・支援のためのツールを提示し、実践事例も交